

黒田龍之助著「外国語の水曜日 - 学習法としての言語学入門 - 」

現代書館 2000年7月15日刊を読む

外国語学習にとって最も大切なこと

1. 外国語学習にとって最も大切なこと、それはやめないことである。
2. 「続けること」なんていう積極的なものではない。とにかくやめない。諦め悪く、いつまでたってもその外国語と付き合っていこうという、潔くない未練たらしい態度が必要なのである。
3. 大学では外国語学部に籍を置き、夜の語学学校でも勉強をしてきたが、思い返してみればわたしより優秀な人はいくらでもいた。そういう人は授業中なんかも必ずキチンと答えるし、宿題はやってきているし、そもそも前回やった内容をしっかりと身につけていた。わたしはといえば、うまく答えられなかったり、宿題がちゃんとできていなかったり、そもそも文法事項がキチンと頭に入っていなかったり、さらには二日酔いだったりしてボロボロだった。けれども授業は休まなかった。恥ずかしい思いをしながらも諦めなかった。
4. しかも不思議なことに優秀な人というのは、あるレベルに達すると「わたしの 語はこれでもう十分である」とキッパリ判断し、あれほど熱心だった学習をパタリと停止してしまうのだ。先生はたいてい残念がるのだが、本人はあっさりとやめてしまう。こちらは先生から「たいして効果も上がらないのにまだやっているのか？」と呆れられながらも、諦め悪くまたノコノコと教室に向かっていたのだった。
5. いままでこそ教師なんていう「偉そうな」稼業をやっているが、あの優秀な人たちが本気で研究者を目指したなら、わたしなんてきっとかなわなかったと思う。
6. わたしがやったのは、やめないことだけだった。
7. そりゃあ、わたしだって勉強がいやになったこともある。でもそういうときは、たとえばロシア語に飽き飽きしても、ロシア映画を見たり、ロシア文学を読んだり、ロシア美術全集を眺めたり、ロシア料理を食べたり、とにかく何かしらロシアと関係のあることをして気分転換をした。そのうちに「ロシア語イヤイヤ病」も治まり、また性懲りもなく勉強を続ける、そんなことの繰り返しだった。

8 . 潔いのはカッコいい。物事、白黒ハッキリさせるほうが気持ちいい。そう考える人も多いだろう。

9 . でもわたしは違っていた。どうせ完璧なんて無理なんだから、中途半端でも構わないじゃない？ そんなに目くじら立てないで、楽しく勉強しようよ。べつになにかに追いかけているわけではないし。そう、外国語ができなくたって、死ぬわけじゃないでしょ。

10 . わたしはそういういい加減な人間なのである。でも、おかげさまで外国語をここまでやめずにきました。外国語の学習はキッチリやることが王道である。でもいい加減な人間にはまたそれなりの方法があるんじゃないかと考えている。

11 . いまでもわたしは、諦め悪く、いくつかの外国語をやめないでいる。

[コメント]

人生はあきらめたらおしまい。同じように語学学習はやめたらおしまい。黒田先生のデビュー作とも言える「外国語の水曜日」で示された極めつきの語学学習の心構え。

- 2010年9月23日 林 明夫記 -